

# 令和7年度北区立桐ヶ丘中学校 自己評価報告書

## 1 自己評価の結果と分析

### (1) 教育活動への取組と評価

#### ① 具体的取組

今年度は、校内研究課題を「教員の授業力向上と適正な評価」と定め、それを中心に教育活動を推進してきた。そして学校教育目標である「自立・協力・創造」を達成するため、充実した学校施設と地域資源、また人材を有効活用し、学校経営理念を『生徒ファースト』とし、以下の点を重点目標として掲げて教育活動を展開した。

- ア 指導と評価の一体化及び適正な評価・評定
- イ アンダーマネジメントに基づくいじめの根絶

#### ② 取組に対する評価

評価を四者（生徒・保護者・学校評議員・教職員）に対し、「取組指標（努力目標の達成度）」、「成果指標（課題解決の達成度）」に分けて行った。（カッコ内の数字は前年比）

ア 取組指標における肯定的評価率

a 生徒…89%(-2) b 保護者…77%(-3) c 評議員…89%(-11) d 教職員…87%(+2)

イ 成果指標における肯定的評価率

a 生徒…86%(+2) b 保護者…80%(+3) c 評議員…67%(-23) d 教職員…100%(+4)

#### ③ 分析と評価

大学教授を校内研修講師として迎え、上記①の重点目標の2点に関する講話を聴き、それに基づいた実践を行い一定の成果が表れている。さらに、区配置の各種支援員を活用した組織的・計画的な生徒に応じた個別対応により改善傾向が見られており、その結果がアンケート集計の数字にも表れているが、評議員については「わからない」という回答が多かったために（-）が大きくなった。

### (2) 重点目標への取組と評価

◎評価の判断基準について（アンケート調査による肯定的評価の割合）

重点目標の達成度の評価については、以下の基準にて判断した。

A：目標達成 80%以上 B：かなり達成 70%以上(80%未満)

C：ある程度達成 60%以上(70%未満) D：十分に達成していない 50%以上(60%未満)

E：全く達成していない 50%未満

※ 数値と記号が**太字**は前年度より向上したものの、*斜体字*は低下したものの、その他は変化無し

#### ① 学習指導

◎目標の達成度（評価＝A）

ア 生徒の評価

(a) 授業が工夫され、学習することが楽しい。…**91%**（+4）

(b) 教育機器を有効に活用し、学習意欲が高まっている。…**85%**（+1）

イ 保護者の評価

(a) 授業が工夫され、学習することが楽しいようだ。…**71%**（+1）

(b) 教育機器が有効に活用され、学習意欲が高まっているようだ。…**69%**（+7）

ウ 教員の評価

(a) 授業を工夫し、生徒が学習することを楽しんでいる。…**97%**（+1）

(b) 教育機器を有効に活用し、生徒の学習意欲が高まっている。…**87%**（-5）

学習指導については、区の「基礎基本定着度調査」において、学年が上がるにしたがって各教科とも平均正答率を上回る状況となっている。また、学ぶ意欲について、生徒・教員に比べ保護者の肯定的な回答が下回っているが、否定的回答よりも不明回答が多数を占めたことによるものである。今後は生徒の学習状況をさらに丁寧に保護者へ伝えていくことが課題である。

② 生活指導（教育相談・防災安全教育を中心に）

◎目標の達成度（評価＝A）

ア 生徒の評価

(a) 「いじめをしない。見逃さない。」行動が取れている。…**73%**（+12）

(b) 防災や安全について、意識が高まっている。…**94%**（+3）

イ 保護者の評価

(a) 「いじめをしない。見逃さない。」について話をしている。…**56%**（+7）

(b) 防災や安全について、家庭でも話題にして意識している。…**85%**（+4）

ウ 教員の評価

(a) いじめを見逃さず、適切に指導している。…**100%**（+4）

(b) 防災や安全について、適切に指導している。…**100%**（±0）

生活面においては、「いじめ根絶」を日々の指導の中心に据えており、評価もすべての項目で昨年を上回っている。保護者の評価が低い点もあるが、この点は不明回答が多数を占めたためであるが、これは学校としての取組を十分に保護者に伝え切れていないことも一因であると考えられる。一方、防災・安全に関してはいずれも高い評価である。

③ 学校運営

◎目標の達成度（評価＝A）

ア 生徒の評価

(a) 桐ヶ丘中学校で学校生活を送ることができて良かった。…**88%**（+2）

イ 保護者の評価

(a) 桐ヶ丘中学校で学校生活を送ることができて良かった。…**87%**（-1）

ウ 教員の評価

(a) 生徒に対し、良い学校生活を送らせることができている。…**87%**（-1）

全体としてほぼ昨年と同等の高い評価をいただいたが、自由意見の中には厳しいご指摘もあり、一部の否定的回答に対して、丁寧に対応していく必要性を感じている。この結果に満足することなく、今後も生徒へのきめ細かな対応と、保護者に対する一層丁寧な説明に努めていく。

## 2 次年度以降の課題と対応策

### （1）課題

- ① 特に若手教員について、学習指導要領の理念を理解して授業改善をさらに進め、主体的に学習に向かう生徒の育成をねらいとした指導法を確立していくこと。
- ② 教育相談体制を充実させ、今以上に不登校生徒の減少といじめ根絶へ向けての取組を推進すること。
- ③ 保護者の考え方について、いろいろな面での多様化と、利己的な要求に対する学校としての対応策の構築。

### （2）対応策

- ① 各教科の授業形態や評価方法の研修を推進し、確実に学習意欲の向上に資する教育活動を展開できるよう研修を充実させ、研究員や教師道場への参加を促すなど、教員一人一人の授業力の向上を図る。
- ② 不登校巡回教員や校内別室指導支援員の活用等の不登校対応策を継続するとともに、家庭環境を含めた生徒理解を深め、SC、SSW、さらに関係機関との連携を一層密にしていく。
- ③ 保護者会や三者面談等も活用したり、学校ホームページの有効活用など広報活動を充実させたりするとともに、学校評議員やPTA・地域との連携を強化する。